

## 「妙高市民の心」作文 優秀作品集（高学年の部）

最優秀賞

### 大好きな妙高を大切にしよう

妙高高原南小学校 6年 <sup>たなか</sup>田中 <sup>みう</sup>美羽

「君たち、スキーやっているの？カッコいいね。私もスキーをやってみたいな。」

私が佐渡へ修学旅行に行ったとき、妙高高原から来たことや毎週末に運動公園でクロスカントリースキーの練習をしていることを伝えると、たくさんの人からこう言われました。私は修学旅行に行って、妙高のよさにあらためて気付きました。


学校で、妙高と佐渡を比較する学習をしたときも同じようなことがありました。妙高には毎年約六百万人もの観光客が訪れるそうです。その数の多さに驚きました。また、最初は、スキーができる十二月から三月に観光客が多いと思いましたが、実際は、夏のシーズンに一番多いことも分かりました。妙高の夏は涼しく、過ごしやすいからだそうです。そう言えば夏に高地トレーニングのために多くの人たちが合宿に来ています。住んでいる私たちには当たり前過ぎて気付かないよさがあるのだと思いました。

わたしは、夏が涼しく、冬にはスキーができる、自然豊かな妙高が大好きです。そして多くの人に妙高のよさを知ってもらいたいです。そのために、私たちができることはどんなことでしょうか。それは、一人一人が妙高のよさに気づき、守ることだと思います。

ある日、登校途中にペットボトルが落ちているのを見つけました。すると、同じ登校班の低学年の子がそのペットボトルを拾い、「これ、学校に持って行って捨てよう。」と言いました。私は、驚きました。気付いていたのに拾わなかった自分が恥ずかしくなり、ゴミを拾う習慣を付けようと思いました。まずは、身の回りで、自分のゴミは自分で捨てることから始めています。一人一人が、心がけることで、もっときれいで、もっと気持ちのよい妙高になると私は思います。

佐渡は、海が美しく、行く先々で歓迎していただき、感激しました。私も、同じような気持ちで大好きな妙高を守り続けたいです。





優秀賞


## いつまでもじいちゃんといっしょに


新井南小学校 6年 ほりかわ 堀川 あさひ 朝陽

「朝陽、ちょっと手伝ってくれ。」じいちゃんはいつもぼくにこう言う。ぼくのじいちゃんは子どもの時に右手を事故でなくした。そんなじいちゃんをぼくはいつも手伝う。

夏休み、ぼくが二階で、テレビを見ていると、「朝陽、ちょっと畑に行くぞ。」とじいちゃんが声をかけてきた。畑の手伝いはいつものことだ。だけど、ぼくはめんどくさいとかだるいとか思わない。じいちゃんと畑に行くのが大好きだからだ。今年もじいちゃんの畑には、トマト、ゴーヤ、なす、きゅうりなどたくさんの野菜がなった。毎日のごはんにじいちゃんとぼくで作った野菜が並ぶ。一緒に作った野菜はうまい！世界一だ。いつも食べながら、じいちゃんの畑を手伝ってよかったと思う。今年は、五月に山菜採りやこいのぼりたてもした。じいちゃんと一緒にとった山菜は天ぷらにして食べた。こいのぼりは自分も手伝ったと思うと達成感が得られてうれしく思った。じいちゃんは、ぼくが手伝うといつも「ありがとね、助かるわ。」と言ってくれる。ぼくはじいちゃんと一緒に仕事をするのが楽しいし、習い事の送りむかえを何年もしてくれているので、そのお礼がしたいという気持ちもある。大会でいい結果が出たときは、まっ先にじいちゃんに言う。じいちゃんはやさしい笑顔で「おめでとう、よくがんばったね。」とほめてくれる。ぼくはじいちゃんが大好きだ。

ぼくはこれからもじいちゃんのことを大切にしていきたい。なくなるまでじいちゃんの手伝いをしたいと思う。習い事もしっかりとがんばり、いい結果を出して、じいちゃんを喜ばせたいと思う。じいちゃん、これからもいっしょにたくさんのごとをしようね。





優秀賞

幸せな未来のために今、できることを！！

新井北小学校 6年 やまかわ 山川 みのり

みなさんは、新型コロナウイルス感染症防止のために、がまんしていること、悔しい思いをしていることはありますか。

私は、小学校六年生で、今年は、小学校生活最後の運動会や、陸上大会、市の音楽祭などがどんどん中止になり、悔しい思いでいっぱいです。その上、楽しみにしていた修学旅行までも、行けるかどうか分からない状態で不安でしたが、このまま感染が拡大しなければ、行けるのだということが決まり、飛び上がって喜びました。だから、母が「そろそろ家族で外食に行かない？」と言ってきても、本当はすごく行きたいけれど、「修学旅行が終わるまでは、行かない！自分が、もし感染したら、みんなも行けなくなってしまうから。」とがまんしています。

そんなとき、スーパーでマスクをしないで、大声で話をしている人を見かけました。日本中が、世界中が、感染を拡大させないように取り組んでいる今、何故マスクをしないのだろうと、不思議に思いました。みんなが、何かしらがまんして、生活しているのに。

暑い中、マスクをすることは、誰だって嫌です。私だって正直嫌です。マスクをしていない人は、自分一人ぐらいしなくてもいいとか、自分は絶対に感染しないと思っているのかもしれませんが。他人事だと思っているのかもしれませんが。世界中のみんなが、そう思っていたのでは、絶対に感染が収束することはありません。だから、今こそ、自分が予防することで、誰かの感染を防ぐことができるかもしれないと、誰かのために、がんばることが必要ではないかと思うのです。

みんなでしっかり対策をして、来年こそは充実した一年にしたいと思いませんか。私はこれからも、うがいや手洗いをし、マスクをしっかりと、幸せな未来のために感染予防を続けていきます。

